

会 議 録

会議名	第2回 第6期南砺市協働のまちづくり推進会議
議題	1. 開 会 2. 協議事項 (1) 南砺市協働のまちづくり推進会議の役割について (2) 部会案について (3) グループディスカッション 協議内容：部会の名称及び部会にて協議するテーマ 3. 事務連絡 4. 閉 会
開催日時	令和6年9月10日（火）午後7時から午後9時まで
開催場所	井波コミュニティプラザ「アスモ」 大会議室
会議出席者	[委員：全20名] ※50音順、敬称略 出席：荒木 信人、磯辺 文雄、上坂 紀子、長田 正勝、 北川 弓子、窪田 茂子、齊藤 優華、坂本 博昭、 佐竹 弘昭、嶋田 隆、清部 一夫、俵 圭子、 中山 明美、林 則雄、松本 久介、三谷 直樹、 南 眞司、安居 時美、山本 剛 欠席：竹部 俊恵 [市：出席3名] 事務局 南砺で暮らしません課長 大浦 幸恵 " 協働のまちづくり係長 野原 加奈子 " 主事 得能 基史 [傍聴者：1名]
協議事項	委員長あいさつ 【協議事項】 (1) 南砺市協働のまちづくり推進会議の役割について (2) 部会案について 事務局より説明 A 委員 条例の中で、「行政は市民の声を聞いて政策に反映しなければならな

い」と書いてある。南砺市の場合、行政に対して提案しても政策に活かされてた記憶が無い。「C：情報共有推進部会、提言の検証部会」が担当になるのかもしれないが、そのようなことを推進会議で議論する必要があると思う。部会案の名称と内容が一致していない気がする。

委員長

行政への提案の件は、Cの部会が担当すると想定しているが、これが決定ではないので、自由にグループ等を移動いただきたい。部会案の名称はあくまで素案であると理解いただきたい。

B 委員

部会案の「市民活動」について、市民活動と一口に言ってもいろいろなものがあると思うが、どのような定義づけをされているか。

委員長

部会案の名称や内容は、委員へのアンケート調査に基づいて作成した素案なので、グループにて協議する中でお互いに理解を深めていただきたい。

C 委員

A 委員やB 委員がおっしゃる通りで、部会案の内容に開催してあるパンフレットは10年以上やってきたものであり、これ以上やっても意味が無いのではないかと思う。

部会案の名称や内容は、あくまで提案であると理解していいか。

副委員長

その通りである。

委員長

パンフレットについては従来と同じものではなく、現在の南砺市に必要な内容になるように、前期に提案したものである。

C 委員

それに対して必要なものはパンフレットではなく中間支援組織だと思うし、それは過去に推進会議が提案して設立されたものである。

副委員長

部会案の名称や内容は、委員へのアンケート調査で得られたキーワードをもとに分類した素案なので、グループにて協議する中でお互いに理解を深めていただきたい。

(3) グループディスカッション

協議内容：部会の名称及び部会にて協議するテーマ

A グループ

D 委員

南砺市では様々な団体が活動しているが、それぞれの活動を知らない
ので団体同士が繋がらないという課題がある。それぞれの活動を知る
場として、多くのプレイヤーが集まる「朝市」が良い場になっていると
知った。

B グループ

副委員長

グループでは、協働のまちづくり支援センターについて協議した。セ
ンターのあり方について理解を深める必要があるという結論に至った。
他には、市民団体への支援が必要だという意見、地域の声が行政に届い
ているのかわからないという意見があった。

B グループの方向性としては、協働のまちづくり支援センターのあり方
について議論することとしたい。

C グループ

E 委員

このグループは、行政に対する不満があるという点で一致していた。
せっかくまちづくり基本条例があるのに、各課で「協働」がなされてい
ないことが原因だと思う。

例えば、推進会議から市へプッシュ型の情報共有を提案していたが、
社会中がプッシュ型になっており、情報が煩雑になってしまうという現
象が起きている。グループでの意見として、市に対して各課の協働を進
めてほしいということ、窓口を一本化してほしいという意見があるとい
うことがわかった。

委員長

グループで話すことによって全体では聞こえない声が聞こえて、とて
も良かった。事務局と相談し、次回の推進会議では部会が決定するよう
にしたい。

閉会

副委員長があいさつし、会議終了